

読み書きに困難を持つ発達障害児への指導

～漢字学習にICT活用を行い、意欲をもたせる指導法の研究～

習志野市立大久保東小学校

〒275-0011
千葉県習志野市大久保2-12-1

<http://www.nkc.city.narashino.chiba.jp/daitou/>

1 はじめに

習志野市立大久保東小学校は、今年 50 周年を迎えた学校である。児童数は 602 名（5 月 1 日現在）で、学級数 19 学級、通級指導教室 1 教室で構成されている。通級指導教室は、平成 21 年 4 月に開設され、4 年目を迎えている。通級児の中には、読み書きに困難を示す児童も多く、個別指導や小集団指導で、意欲をもたせる指導が必要と考えられた。

「教育の情報化に関する手引き」（平成 22 年 10 月 文部科学省）の「第 9 章 特別支援教育における教育の情報化 第 3 節 1.（1）発達障害のある児童生徒に関する情報教育」において、以下のように記述されている。

発達障害のある児童生徒の中には、コンピュータなどの情報機器に強く興味・関心を示す者もいる。そのような児童生徒には学習意欲を引き出したり、注意集中を高めたりするために情報機器を活用することが想定できる。また、発達障害のある児童生徒の中には認知処理に偏りを持つ者も見られ、情報機器によってその偏りや苦手さを補ったり、得意な処理を伸ばしたりするなどの活用も想定できる。

そこで、通級指導教室や通常学級で ICT 機器を活用して学習を進め、発達障害児の学習に対する意欲を観察しながら、指導方法や内容の検討を行っていききたい。

2 研究の目的

通級指導教室で支援をうけている児童の中には、書くことを苦手と思うことが多い。手先が不器用なこともあって、上手に書けない児童や、視覚認知面に問題があって、形を上手にとらえられない児童も多い。通級児童が興味関心を示す機器は、パソコンであり、パソコンソフトによる学習をととても楽しみにしている。

平成 22 年度の備品予算でパソコンを購入し、平成 22 年 9 月から新しいパソコンによる指導を行ってきた。新たに漢字ソフト「漢字の森」を購入し、漢字を苦手と考えている児童に対して、ゲーム感覚で取り組めるソフトにより、漢字への興味関心を広げようと考え、指導を行っている。しかし、通常学級による漢字の指導については、書くことが中心であり、書くことを苦手とする児童においては、授業参加に困難な状況が多いと考えられる。

そこで、今年度は、電子黒板機能付きのプロジェクターを購入することにした。通級指導教室での個別

指導は、今まで通り、パソコンを使用した漢字学習を行っている。小集団指導において、電子黒板を導入し、通常学級に近い形式での学習を進めることを計画した。新たにパソコンソフト「ランドセル」を購入して、漢字の書き取り学習を進めることにした。また、通常学級でも、電子黒板で漢字学習を進めていく計画を立て、実践していく。発達障害児が、苦手な漢字学習に興味関心を持って取り組むことができると考える。

3 研究の方法

通級指導教室に通級している児童の中で、読み書きに問題を持つ発達障害児を、研究の対象とする。今年度は、パソコンや電子黒板を使って、漢字の読み及び書く能力を高める指導を中心に研究を進める。

通級指導教室での個別指導（週1回45分中10分）で、漢字学習のパソコンソフトを導入する。新出漢字については、タッチパネル式のパソコンを利用し、学習を進める。小集団指導（週1回45分中10分）で漢字学習を導入し、通常学級に近い形式で、パソコン及び電子黒板を使った学習を試みる。

通級児が日常生活を行っている通常学級を訪問し、読み書き能力及び学習態度等を参観する。担任と、支援方法について話し合う。各学期末には、指導方法について評価及び検討を通級指導教室及び通常学級で行い、来学期における指導方法及び支援方法を検討する。通常学級の漢字学習に、電子黒板を導入し、学習を進め評価する。

読み書きに問題のある発達障害児が所属する通常学級を中心に、国語の時間（漢字）における指導方法について検討する。ICT機器を活用した漢字学習の効果を検討し、次年度における漢字学習の方法を検討する。また、小集団指導においては、漢字学習以外、算数においてICT機器を活用した実践を行い、効果があると思われる内容を検討していく。

4 研究の内容

通級指導教室の個別指導及び小集団指導の中で、パソコンや電子黒板を使った漢字学習に取り組む。通常学級での国語の時間に、パソコンや電子黒板を使って漢字学習に取り組む。

以下に、年間計画を記載する。

- (4月) 通級指導教室での対象児を決定し、通常学級担任及び通級指導教室担当者が話し合い、長期目標、短期目標（読み書きに関する指導を含む）及び支援方法について検討する。
- (5月) 通級指導教室での個別指導及び小集団指導時の漢字学習に際して、パソコンソフトを取り入れた学習を開始する。
- (6月) 研究会を行い、電子黒板を検討する。
- (7月) 1学期の指導内容及び支援方法について評価し、2学期の目標及び支援方法を検討する。
- (8月) 電子黒板を購入し、指導方法を検討する。教材研究を行う。
- (9月) 小集団指導で、電子黒板を使った漢字の学習を行う。通常学級の訪問を行う。
- (10月) 国語の公開研究会に向けて、通常学級での学習態度及び学習内容理解について実態を把握する。研究会を行い、通常学級で、電子黒板を使った漢字学習の取り組み方を検討する。
- (11月) 2学期の指導内容及び支援方法について、通級指導教室及び通常学級の各担当者が、評
- ・12月) 価及び考察をする。3学期の目標及び支援方法を検討する。

- (1月) 通級指導教室で個別及び小集団指導を実施する。通常学級の訪問を行い対象児の実態を把握する。
通常学級で、漢字学習時に電子黒板を使った学習を導入して、発達障害児及び通常児の学習状況を把握する。
- (2月 3学期の指導内容及び支援方法について、通級指導教室及び通常学級の各担当者が、評
・3月) 価する。1年間の研究のまとめを行うと共に、次年度の研究方針と方法を検討する。

5 研究の経過

(1) 個別指導による経過

①対象児 A児 (3年生男児)

②対象児の概要

〈通級教室での様子〉

全般的な力を育てていくことが必要である。特に処理速度や言語理解の能力に関して支援が必要である。

視覚認知検査結果から、視覚認知スキルにおいては、細部認識の弱さ、イメージ構成力に苦手さが見られる。

〈通常学級での様子〉

読み書きに問題が見られる。ひらがなも下から上に書くことが多い。漢字の書き順も正しく書くことができない。体の動きがぎこちなく、体育においては、個別の支援が必要である。

生活面でも、手先が不器用なこともあり、支援が必要である。

③指導目標及び指導経過 (パソコン教材のみ)

〈指導目標〉

- ・パソコンの画面をみることができる。
- ・パソコン教材の指示に従って、タッチパネルの操作を行うことができる。

〈指導内容〉

- ・パソコン教材「しっかり見よう」による学習態度の形成

星の動きを追う。青い星が、2連続出てきたら、マウスをクリックする。

迷路を目で追って、出口をクリックする。

- ・パソコン教材「ランドセル小学3年」による漢字の学習

画面に出てきた漢字を指で、なぞっていく。→ 漢字の読みを確認する。→ 漢字を書く。

〈指導経過〉

- ・「しっかり見よう」で、追試行動が上手になってきている。
- ・「ランドセル小学3年」で、新出漢字の書き方を学習する。書き順を間違えないで書こうと、努力するようになる。

(2) 小集団指導による経過

①対象児 B児 C児 D児 E児 (6年生男児、4名)

②対象児の概要



B児—手先が不器用で、書くことが苦手である。小さな字を書くことが難しい。全体をとらえる事が苦手である。相手の気持ちを考えることが苦手である。友達とトラブルになることが多い。

C児—不注意なところがあるので、読み飛ばしや書き間違いがみられる。記憶が苦手である。学習には意欲的に参加している。時々状況が判断できずに発言してしまい、場がしらけてしまうこともある。

D児—視覚的には、形をとらえることはできる。手先が不器用である。バランスよく文字の形を書くことは難しい。学習に集中するべき時は、集中してがんばっていることが多い。気分がむらがあり、落ち込むことが時々ある。

E児—字の形にこだわりが見られる。ゆっくり丁寧に書く。記憶はよく、漢字の形などもよく覚えている。升目のなかに、分配して書くことは苦手である。教師の指示を聞いて、理解することはできるが、行動が周りの子と比べて、遅れてしまうことが多い。

③指導目標及び指導経過（漢字学習）

〈指導目標〉

- ・漢字の書き誤りを少なくすることができる。

各児童の目標

B児—大きな文字を見たり、書いたりすることで、書き誤りを少なくすることができる。

C児—うっかりミスを少なくすることができる。

D児—大きな文字を見たり、書いたりすることで、書き誤りを少なくすることができる。

E児—漢字の書き誤りを、少なくすることができる。書くスピードを速くすることができる。

〈指導内容〉

- ・パソコン教材「ランドセル小学6年」による漢字の学習

友達が書く書き順に注目する。→ 紙に大きく漢字を書く。→ 画数や読み方を確認する。

- ・5年生で習った画数の多い漢字の学習



〈指導経過〉

- ・「ランドセル6年生」で、新出漢字の書き方を学習する。書き順を誤らず書こうと、努力するようになる。画数も気にするようになる。

- ・5年生ですでに習った漢字を、電子黒板で提示し復習したことで、正しい漢字を書くことができるようになる。

各児童の様子

B児—大きな文字を見たり、書いたりすることで、正しい字を書くことはできるようになる。

テストになると、忘れてしまうことが多い。

C児—パソコンや電子黒板を使って学習した字は正しく書くことができるようになる。

D児—大きな文字を見たり、書いたりすることで、正しい字を書くことはできるようになる。

テストになると、誤字が多い。

E児—パソコンや電子黒板を使って学習した字は正しく書くことができるようになる。テストでもよい点数をとる。

(3) 通常学級による経過

2学期に、6年生1クラスと3年生1クラスで、パソコン教材を使って、電子黒板機能を使っ
ての漢字学習を行う。6年生、3年生は、新出漢字の学習に取り組む。



6 研究の成果と今後の課題

発達障害児が興味を持っているパソコンを、苦手な漢字学習に導入したことで、3年生男児は、とても意欲的に学習に望むようになった。漢字の書き順においても、正しく書こうと、努力するようになった。ライオン（パソコンソフトのキャラクター）に「ちがうよ」と言われたくない気持ちが見られるようになった。また正解が続くと、お菓子がゲットできることも楽しみなようである。ノートやドリルも、正しい書き順で書くようになってきている。

小集団で指導を行っている6年生は、4人とも、漢字の誤りが多い児童である。漢字ソフトを使うことで、正しい読み方、正しい書き方及び画数を学習することによって、誤学習を避けることができると考え取り組んできた。1学期の漢字のまとめテストでは、4月より良い点数を取ってきている。2学期には、電子黒板を使って、新出漢字のみではなく、5年生の漢字学習も行った結果、誤字が少なくなってきた。

通常学級では、2学級で電子黒板の機能を使った漢字学習に取り組むことができた。発達障害児にとっては、見慣れた教材であることで、意欲的に取り組んでいた。他の児童にとっても興味関心を引く教材であった。

今後の課題として、通級指導教室では、個別指導及び小集団指導で、パソコン及び電子黒板を使った学習課題を検討していくことが必要である。特に、小集団指導では、漢字学習の他に、算数において、電子黒板や書画カメラを使って学習を進め、興味関心を引くことができた。教材提示の方法などを、今後検討

していきたいと思う。また、通常学級でも漢字学習において、パソコン及び電子黒板を導入することで、発達障害児の漢字学習を進めていくことができると考える。漢字学習は、1時間のうちの10分くらいの学習であるため、準備や後始末に時間をかけることができない。今後は常時使える状況にしておくなど、環境整備が必要と考えられる。

7 おわりに

本校は国語の研究校であり、国語の学習の基礎である読み書きを定着させていくことは、発達障害児にのみならず、通常学級の児童を対象とした読み書きの学習に、大きな成果があると考えられる。今後更に、基礎能力の定着を進めるための学習方法を研究すると共に、通級指導教室では、発達障害児のニーズにあったICT機器の活用を行っていき、通常学級でも使えるように研究を進めていきたいと考えている。

参考文献

「教育の情報化に関する手引き」 平成22年10月 文部科学省

「発達障害の子を育てる本 ケータイ・パソコン活用編」 中邑賢龍 近藤武夫監修 講談社